

## 『派遣事業を通して』

下吉田中学校 柳田 真音実

私が、今回の姉妹都市派遣事業に参加を希望した理由は次の2つだ。

1つ目は、英語を聞き取る力・話す力を伸ばすこと。

2つ目は、アメリカの文化を理解し、日本の文化を伝えること。

ここからは、各目的についての成果を振り返る。

まず1つ目の英語力についてだ。渡米して一日目。正直、何を言われているのか全く理解できなかった。英語の授業で聞く、ゆっくりとしたスピーキングではなく、それよりずっと早口で、なかなか聞き取れない。だが、ホストファミリーが、「話すときはゆっくりクリアに話していくね」と語りかけてくれ、実際にゆっくり話してもらうことで、すごく安心し、そこからだんだんとコミュニケーションが取れるようになった。ホストファミリーの子供たちも、私のつたない英語を一生懸命聞きとろうと努力してくれたし、何より嬉しかったことは、ヒマワリのようにきらきらとした笑顔で、私の質問に答えてくれたことだ。私の英語が聞き取れなくても、表情や身振り手振りをういた会話で話してくれ、そのことが私の気持ちを本当に明るくしてくれた。

次に2つ目の文化についてだ。渡米して数日経ち、現地の英語に慣れてきた頃、ホストファミリーの子供たちと、次のような会話をした。私が、日本では、学校にアクセサリーをつけていくことや自由な服装で行くことはできないのだと話すと、「なぜ？その人のしたいようにすればいいのに」と話してくれたのだ。アメリカではその人の個性や考えを素直に表現できる環境が整っている。そして多くの人が自分の気持ちを隠すことなく自分に正直に生きていた。なんて素晴らしい文化なのだろう。日本人の、その場の空気を押し量り、自分の気持ちを表に出さない文化は、他人を思いやりの行動であるから、それはそれで尊重されるべき文化だと思う。だが、世界には、自分を積極的に表現し理解し合おうとする人々が大勢いる。地球という一つの星の中に、色々な考え方を持つ民族たちが共生しているのだということ、派遣を通して実感することができた。

最後に、派遣の中で特に私の印象に残っている出来事をここに記す。ホストファミリーとのお別れの時、ホストマザーが私に小さな袋をプレゼントしてくれた。これはお守りだと。中には小さなアヒルのオブジェが4つ入っていた。ダグダグ・・・グッドラック！！なんてアメリカらしい素敵なお守りなのだろう！次に会えた時私は、ありのオブジェが10匹入ったお守りをプレゼントしたい。ありがとう！ありがとう！・・・

コロラドの皆さん、温かいおもてなしを本当にありがとうございました！